# 令和５年度　第２回　松本「シンカ」推進会議　会議録

日時：令和５年１２月４日（月）
午後３時００分 ～ ５時００分
オンライン会議

（※欠席委員：春日委員、原委員、林委員、益山委員、赤沼委員）

１　開会

２　座長あいさつ

３　議題

⑴　自然×シンカの取組みに係る市の事例紹介

事例①　松本城三の丸エリアでの取組み

・女鳥羽川河川敷を活用しての取組み、みどり町における飲食スペース設置の取組み等について事務局から説明

事例②　松本デュアルスクール

・制度の概要及び現状について事務局から説明

※特に質疑等なし

⑵　自然×シンカの取組みについて（グループ検討）

課題①　グリーンインフラの推進について
課題②　サイクルツーリズムの推進について
以下の２グループに分かれ、各グループで上記２つの課題について検討
Ａグループ…三輪委員、宮澤委員、齊藤委員、荒井委員、三村委員、鬼頭委員
Ｂグループ…山村委員、清水委員、宮下委員、海野委員、百瀬委員、佐藤委員

〔各グループの検討結果（要旨）〕

【Ａグループ】

課題①について

- ◆ 里山整備を通じた循環、例えば薪などを資源として活用する。
- ◆ 地元産材を住宅用建材として活用することで木を感じられる生活につながる。
- ◆ 木材のインクルーシブ公園での活用。金属の部材だと夏は熱く、冬は冷たい。
耐久性やメンテナンスの問題はあるが、暖かみのある遊具となる。
- ◆ 日本独特の里山文化を活かすため、若手農家と連携した情報発信や交流の場づくりができないか。また、里山に関する教育にフォーカスし、里山の仕組みなどを専門的に学ぶ取組みも必要では。観光資源として県外の人たちにＰＲも。

◆ 観光客からも松本のまちはコンパクトで歩きやすいという感想を聞く。新たにインフラ整備するよりも、街中で休める場所として、意図のあるベンチや腰を下ろせる場所を増やしていく必要がある。
◆ お寺やオープンガーデンなどの既存の施設を活用できれば良いが、ハードルが高いかもしれないので、そこは行政側でそういったスペースを整備することも必要。
◆ オープンガーデンは情報発信の仕方が絞られてしまっている。他の情報とうまくリンクできていないのはもったいない。街中ウォーキングマップや井戸巡りマップなど、それぞれ特化したものを繋げてエリア単位で活用・情報発信できるとよい。
◆ 樹木の植え替えは地域住民、特に学生に協力してもらって取り組むのはどうか。学生は学びで知識を得る機会はあるが、中々、自分で実際にやる機会がないためインセンティブにはなるのでは。

課題②について
◆ 安曇野から塩尻間の自転車ロードがつながっていない。一本化していくことで魅力的になる。広域的な関係性ができてくるとさらに良くなる。
◆ 自転車施策を進めることで、そのまま「歩く」にもつながっていく。街道は自転車で移動。善行寺街道や中山道。魅力的な路地が多い松本の街中は歩いて移動。教育にも活用できる。
◆ 本格的にやっている人を対象とするだけでなく、一般の人が平坦で楽しめるコースがあってもいい。
◆ サイクルツーリズムを進めるのであれば、地元の人が自転車に乗っていないと説得力がない。中心市街地で初心者がモラルを守りながら楽しめる営みが必要
◆ 観光として促進していくためには、高額な自転車の置場をどうするかという問題がある。受入体制を整備するための補助金などがあるとよい。
◆ サイクルトレインや自転車が乗せられるバスなど、既存の交通インフラと組み合わせることで価値が広がる。
◆ 浅間温泉など勾配が急なところでは電動アシストの付いたシェアサイクリングが有効。観光客の需要もあると思うので、もっと活用できるとよい。
◆ 観光における自転車の位置付けとしては、インバウンドを始め、非常に需要が高い。
◆ 飛行機で自転車を持ってきてホテルで組み立てる人も多い。
◆ 外国人観光客による自転車を活用した観光については安全面が課題。海外とは異なる交通ルールもある。 ルールや置場案内の多言語化対応も重要。
◆ ヨーロッパでは自動車より自転車の方が優先。条例等の整備もあるかもしれないので、事例を調査することも必要
◆ 海外の方に日本の自転車のルールや危険箇所を学んでもらいながら、自転車による観光を楽しんでもらうような宿泊プランはどうか。
◆ 自転車保険は加入が１年単位となっているものが多いため観光客が利用しにくいのではないか。外国人観光客対応も含め、短期の保険加入の推進も必要

【Ｂグループ】

課題①について

- ◆ 松本の自然の大きな特徴である「水と緑」の活用は重要なポイント
- ◆ 例えば、駐車場の真ん中に木が立っているだけでも緑陰ができる。隠すような自然の使い方
- ◆ 空き家を活用し、観光客や市民がくつろげる緑陰スペースを整備してはどうか。
- ◆ 現在行っている公園通りの整備ではやや背の高い木を植えてほしい。
- ◆ 緑のあるスペースをにぎわいの創出とどうリンクさせていくか。
- ◆ 推進に当たっては維持管理の仕組みが必要
- ◆ かつて花いっぱい運動に携わっていた際、街中に花を増やす取組みを進めようとしたが、誰が管理するのかという問題があり断念した。
- ◆ 松本駅から、あがたの森や松本城へ行く間に紅葉が楽しめる木があると良いが、どうしても落ち葉の問題がある。
- ◆ 人の手がかからない自然の活用
- ◆ 元々松本には意識の高い人が多い。そういった人たちをどう生かしていくか。
- ◆ アクティブシニアの方に管理してもらう仕組みづくりはどうか。
- ◆ 子どもが育てた花であれば高齢者はきちんと世話してくれるのでは。
- ◆ まずは市が実験的に小さな範囲で整備を進めるのが良いのではないか。
- ◆ 市から言われてやるのでは、なかなか自立的な維持管理体制にはなりにくい。住民が楽しみながら管理や推進できる仕組みがあるとよい。
- ◆ 景観賞のグリーンインフラ版をつくってはどうか。モチベーションアップにつながる。ニュージーランドではストリートごとに景観コンテストを行っている事例がある。
- ◆ 自分がもし仮に中心市街地で店を経営しているとして何ができるか考えたとき、やはり店先にプランターを出すなどのちょっとしたことならできると思った。みんながそういう意識を持って取り組んでいくことで全体としてまちの緑化が進む。

課題②について

- ◆ 自転車愛好家の中には１台の自転車に 1,000 万円以上もお金をかける人もいるなど、富裕層も多く、経済効果という点では進めるべき理由はある。
- ◆ 本格的なサイクルツーリズムにはサポートカーが必要（長距離・長時間になるため）
- ◆ 松本城や松本駅前等に屋内の駐輪場を設置するなどインフラ整備も必要。
- ◆ ターゲットをどこにするかによって施策も変わる。本格的にやっている層か、ファミリー層か、中間層か。
- ◆ 子どもやファミリー層をターゲットにしたコース整備も必要では。（将来的な選手の排出という側面もある。）
- ◆ インバウンドには、里山の普通のくらしみたいなものを求めている人も多い。そういう人をターゲットにした取組みの仕組みがあっても良い。
- ◆ 里山の木を伐採しコースとして整備してはどうか。切り出した木材は、例えばおもちゃをつくって保育園に配布するなど活用する。

◆ ツール・ド・美ケ原や乗鞍のヒルクライムのような、一気に高低差１，０００ｍ以上を駆け上がるようなコースはほかの場所にはない。まさに松本ならではのコース。山岳サイクリングは松本が持つ大きな優位性

◆ 自転車レースやイベントの方が開催しやすい部分が多いのではないか。マラソンと違い、交通規制の時間が短くて済むという利点もあり、自転車レースの方が松本には向いていると思う。

◆ 松本は国のモデル観光地にも選ばれている。「ツール・ド・北アルプス」みたいなコンセプトのレースも可能性としてあるのでは。（松本・高山・白馬）

⑶　検討結果の共有

Ａグループ、Ｂグループそれぞれ検討内容を発表し情報共有

４　閉会

次回会議については座長及び事務局で調整の上、別途委員に連絡